



北海道公立大学法人  
**札幌医科大学**  
Sapporo Medical University

**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	アルバータ大学における看護教育の概要報告 -学部、大学院での授業の参観を通して-
Author(s)	今野, 美紀;吉野, 淳一
Citation	札幌保健科学雑誌,第 3 号:65-69
Issue Date	2014 年 3 月
DOI	10.15114/sjhs.3.65
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6077">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6077</a>
Type	Technical Report
Additional Information	
File Information	n2186621X365.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報 告

## アルバータ大学における看護教育の概要報告 —学部、大学院での授業の参観を通して—

今野美紀、吉野淳一

札幌医科大学保健医療学部看護学科

筆者らは、2013年9月にカナダのアルバータ大学看護学部を訪問し、教員との面談に加え、研究者との情報交換や看護学部・大学院修士看護学専攻の授業等に参観する機会を得た。学部授業では、静脈内持続点滴のゼミナール、そして大学院授業では修士課程Philosophy of Educationのゼミナールに参加することができた。授業はリラックスした雰囲気で開催されており、教員は学生に適宜、質問して理解を明瞭にしていた。特に、大学院のゼミナールにおいては、教員は学生の発言から掘って立つ思考のパラダイムまで意識化するよう問いかけていた。Faculty Development (以下、FD) に関しては、教員同士が人々と協力し、教育の質を担保する種々の取り組みが行われていた。研修を通じ、本学看護学科の学部・大学院教育、そしてFD活動への示唆を得たので報告する。

キーワード：アルバータ大学、看護教育、学部、大学院、ファカルティディベロップメント

### Visit to the University of Alberta: Lessons Leant from Participation in Tutorials for Undergraduate and Postgraduate Nursing Students

Miki KONNO, Jun'ichi YOSHINO

Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

The authors made a fact-finding tour to the Faculty of Nursing of the University of Alberta (UA), Canada, in September 2013. During the visit not only did they have meetings with the lecturers and researchers there but also were invited to a tutorial for undergraduates on the topic of continuous intravenous drip and another tutorial on the philosophy of education for master's students. The tutorials were conducted in a relaxed atmosphere, with lecturers asking questions where appropriate to ensure that the students fully understood the subject. Postgraduate students were encouraged to analyze the thought paradigm underlining one's discussions. At the heart of the UA's approach to faculty development was cooperation between the teaching staff and other people concerned; they worked together in various initiatives to maintain the quality of education. It was a rewarding visit and a lot of lessons were learnt that could be applied to undergraduate and postgraduate programs, as well as faculty development initiatives, of the Department of Nursing of Sapporo Medical University.

Key words : University of Alberta, Nursing Education, Undergraduate Program,  
Postgraduate Program, Faculty Development

Sapporo J. Health Sci. 3:65-69(2014)

## 1. はじめに

近年、我が国では看護系大学の増設が目覚ましいが、カナダでは看護師資格の取得条件として3年制の専門学校から4年制の学士課程へと大学教育化が進められており、アルバータ大学（University of Alberta以下、UA）があるアルバータ州では大学教育への移行が完了している。筆者らは、2012年にUA看護学部を訪れ、その教育概要を報告した<sup>1)</sup>。2013年9月に再訪する機会を得、教員との面談に加え、研究者との情報交換やUA看護学部・大学院修士課程看護学専攻の授業に参加する機会も得られ、FD活動、看護学科の学部・大学院教育への示唆を得たので報告する。

## 2. Faculty Development

UA看護学部のActing DeanであるDr. Joanne Profetto-McGrathとGlobal Nursing OfficeのAssociate DeanであるDr. Sylvia Bartonとの面談より、学部のFD活動について情報を得た。現在、学部内には職位や採用条件を越えた4つのFD活動グループがある。カリキュラム評価や後述する“Faculty Learning Community (FLC)”の活動などが具体的な成果として伝えられた。

カリキュラム評価は、全科目に全国统一されたスケールが用いられ、学生による評価が行われている。高評価の教員はボーナス等が与えられ、低評価の教員は研修を受ける、高評価の教員とペアで授業をするなどの改善策が組まれている。UA看護学部では、少人数教育のContext Based Learning (CBL) を教授方法の特徴に掲げているが<sup>1)</sup>、今年は大学運営予算削減の影響から、今までと同数の教員雇用が得られなくなった。その為、少ない教員でも学習効果を保つ工夫を検討している。

“FLC”は、Caring集団として教員のみならず学生を含めて地域の人と共に築く活動であり、教員が文化や地域に

対する感受性を高め、教員ネットワークを強化し、職務満足を高めるための取り組みである。活動の成果は可視化するように取り組まれている。その一つとしてアート作品づくりがあり、教員がグループでアート作品に取り組み、その過程を通じて互いの考えを共有することができた（写真1）。

## 3. 看護技術のゼミナール

今回、筆者らは看護学部Simulation Laboratoryで行われていた静脈内持続点滴（以下、点滴）の技術演習に参加の機会を得た。

### 1) 演習室の配置

演習室内のベッドは、壁側が頭側で4台が向かい合わせで並び、計8台が配置されていた。輸液ポンプは学生用に一人一台、ベッドサイドに標準装備されていた（写真2）。

### 2) 演習の進め方

12名の学生（女性10名、男性2名）と1名の教員がいた。この演習前には全体講義があり、事前学習課題<sup>注1)</sup>には図書館のデータベースを活用するように指示があった。

教員が点滴の基本知識について学生に30分程度かけて確認したあと、教員が演習で行う操作に関して、一つのデモンストレーション（以下、デモ）をしては、後に学生が取り組むのを繰り返していた。

### 3) 学生・教員の概要

学生はRegistered Psychiatric Nurse to Bachelor of Science in Nursing Degree Program<sup>注2)</sup>（RPN to BScN Program）に在



写真1 Faculty Learning Community活動を紹介する写真を主体とした本



写真2 シミュレーション・ラボラトリー内のベッドサイド

籍している者であった。教員の説明中、学生はワークブックにメモをしたり、ノートパソコンに記録したりと受講の様子は様々であった。演習時の服装は学生・教員共にカジュアルな私服であった。

#### 4) 基礎知識の確認

教員が確認していた基礎知識の内容は、点滴の長所と短所、点滴施行時の原則、患者の薬物アレルギー、処方箋と薬品のラベルの見方、循環器疾患など特別なニーズのある患者の留意点、注意を要する薬物の扱い、などであった。教員は薬品ラベルの見方を学生に確認した後、これから点滴バッグに貼るラベルを書くよう促していた。メインバッグの量と薬の量から薬物濃度（1mlあたりの薬のmg量）を、1時間あたりの流量（ml）から1分間あたりの滴下数を学生に問い、確認していた。

#### 5) 点滴の操作

演習では、学生が主に4つの操作（①点滴バッグにルートをつなげる、②バイアルの薬剤を溶解する、③Y字管をつけてメインの点滴バッグに側管の薬剤バッグをつなげる、④点滴ポンプにルートを通し設定パネルを操作する）を経験できるよう設計されていた。点滴を操作する前提に紙上事例を用いており、幼児が点滴を要す設定であった。演習時の必要消耗品は、1学生1セットが袋詰めされて備えられており、中央テーブルの上で各自がそれを開けて点滴の準備をしていた（写真3）。

学生は二人一組になり、ベッドサイドの輸液ポンプ台の所で、上述した4つの操作のうち①③④を行っていた。また、側管の薬剤バッグが指示通りに投与されたという設定でもう一つの薬剤バッグをつなぎかえており、その際、教員はY字管ルート内の満たし方をデモしながら実施していた。

学生からは、薬の溶解の仕方、シリンジやルート内のエアの抜き方、Y字管ルートやポンプの操作の仕方について質問が上がり、教員は操作中の学生の中を回りながら質問に答えていた。教員は「コツは何度も練習すること、希望

者はルートと点滴バッグを持ち帰ってよい」と学生を励ましていた。

## 4. 大学院修士課程看護学専攻のゼミナール

Master of Nursing Program<sup>3)</sup> 注<sup>3</sup>のPhilosophy of Educationのゼミナール（以下、ゼミ）に参加する機会を得た（表1）。ゼミは8名の院生（女性7名、男性1名）と2名の教員（主任教授と准教授）で運営されていた。この日のテーマは“Technology”で、院生は課題文献を読んで参加していた。筆者らは3時間のゼミの中休みから参加することができた。後半の授業の最初に、教員がLondon Timesのコピー（A4判用紙1枚）を配布し、そこには“Common Sense”というエッセイが記されており、ある常識は別の面からみると違うことを笑い話にしたものであり、教員は院生へ順に音読するよう促していた。

その後、教員は世間に流通した製品の移り変わりを例えながら、教育において自分たちはどのようにTechnology（シナリオ、言葉、シュミレーション教材、e-book）を活用しているか、エビデンスに基づく教育とは何かを院生に質問していた。その際、院生が回答した言葉から、教員は、その答えが教授法のパラダイムからみると教師中心なのか、学習者中心なのかを尋ねていた。情報化が進んだ今日、そしてさらに発展するであろう将来、知識の産出や学習パラダイムの変化がもたらされることになる<sup>4)</sup>。そうしたことから教員は今の学習パラダイム<sup>4)</sup> 注<sup>5)</sup>としてのConstructivism、情報化が進んだ将来の学習パラダイムのNavigationism、これに内包されるConnectivismといった近接するパラダイムを確認していた。

次に教員は、教育者の格言が記されたメモ入りのポットを院生に回し、院生はくじ引きの様にしてメモをとり、開いて格言を読み、コメントしていた（写真4）。院生はどのメモを引くのかと楽しそうに参加しており、教員は院生が単に自分が経験したことを述べるに留まらず、クリティカルにコメントすることを求めている。



写真3 バイアルの薬品を溶解している学生



写真4 “out-of-the-box thinking” に用いられた箱とメモ

表 1 UA Master of Nursing Program Areas of Focus

Core Courses		NURS 502 Nature of Nursing Knowledge NURS 503 Research Foundations NURS 504 Statistics in Nursing Research NURS 505 Transforming Practice NURS 506 Program Planning † or NURS 508 Health Technology and Innovation
Remaining courses to be selected from the following focus areas in consultation with supervisor:	Teaching	NURS 546 Philosophy of Teaching NURS 556 Teaching in Nursing Practice NURS 586 Teaching Practicum
	Research	INT D 540 Principles of Qualitative Inquiry NURS 683 Design Problems in Nursing Research NURS 588 Research Practicum
	Leadership	NURS 554 Nursing Leadership in Healthcare or PHS 581 Basics of Leadership NURS 584 Advanced Theory and Practicum in Community/Healthcare organizations
	Community offered alternate years (2013/14; 16/17 etc).	NURS 514 Community and Organization Assessment NURS 574 Health Practice in Communities and Organizations NURS 508 Health Technology and Innovation NURS 584 Advanced Theory and Practicum in Community/Healthcare organizations
Certificates on Transcript		Teaching: if all three teaching courses are taken Aging: with NURS/HECOL 604 Fundamentals of Aging added to program †.
Electives		Electives may be selected from NURS courses or other areas/faculties in consultation with the supervisor NURS 560 Canadian Nursing in Context/Assessment: elective highly recommended for international students who are seeking CARNA registration
Course based: total of 11 courses of graduate course work + NURS 900 capping exercise.		
Thesis based: total of 10 courses of graduate course work + thesis.		

† NURS/HECOL 604 replaces NURS 506 as a core course in the Aging specialization. NURS 506 may be taken as an elective.

#### 表 1 は文献 3) からの引用転載

コアコースのNURS 502 Nature of Nursing Knowledge, NURS 503 Research Foundations, NURS 504 Statistics in Nursing Research, NURS 505 Transforming Practice, NURS 506 Program PlanningはNPコースにおいても必修科目である。

## 5. 研究者との情報交換—アルバータ住民への安楽死（自殺）に関する意識調査

アルバータ大学ホームページでMajority of Albertans support assisted suicideと銘打って紹介されたDr. Donna Wilsonの研究<sup>6)</sup>について質問しながら安楽死や自殺に対する住民の意識と対策について意見交換する機会を得た。彼

女は看護学部の教授であり、高齢者と終末期ケアの専門家である。この研究のはじまりは、20年前のヨーロッパでの住民意識調査に遡る。当時は病院での死を望む人がほとんどであったが、その後、自宅での死を望む人が増え、穏やかな死を望む声が台頭してきた。そこで、電話で1200人を超えるアルバータ住民に意識調査を実施したところ、77%の人が死にゆく人の自らの死（自殺）を支持した。カナダでは、まだ安楽死は法的に認められていないが、アルバー

タ州は、カナダの中で最も新しい州であることも開かれた議論を後押ししているとのことである。日本では、自殺対策に追われ、いかに人生を充実させるかといった議論をさしはさむ余地が狭くなっている。Dr. Wilsonの論文では、自らの穏やかな死をsuicideと表現されていることもあり、自死遺族支援に携わる者としては、安楽死議論の成熟が、自殺に対する意識変化の好機となるかもしれないという期待を抱いた。

## 6. 本学の教育活動への示唆

FDに関しては、緊縮予算の中、工夫しながら教育の質を担保する種々の取り組みは本学と共通するものがあり、教員が学生や文化・地域を大切にし、互いに支えあいながらよいものを目指す姿勢にも共感を覚えた。本学の教授活動においても様々な人と緊密な繋がりがあり、筆者も教員の一人としてそれを大切にしているが、それは当然のことであり可視化を意識したことはなかった。しかし、本学に今ある、もしくは、今後起こりうる種々の課題の解決策の一つに「人との繋がり」は重要な要素であり、“FLC”の取り組みは一つの手本になろう。

看護学部で技術演習の見学を通じて、この課題に必要な技術と知識の教授内容、指導体制（学生数と教員数の比率）はUAも本学も概して同じで、本学の教授活動はUAと遜色なく展開されていると感じた。但し、UAの方が医療機器の種類と数が豊富で学生が操作する機会が多く、実践に近い環境での学習が組まれていた。これは先進国における看護の臨床現場と基礎教育での学習の乖離を少なくするための取り組みともいえ、教材の面からの充実が伺われた。本学においては教育棟完成前の現行においてUAに倣った即時対応は難しい。教育研究でグラントを得るなどして内容の更なる拡充と物的な充実を図ることがのぞまれた。

大学院ゼミを通じて、教員はリラックスした雰囲気でも議論が活発になるよう教材の事前準備をし、院生が発する回答から教員はどのパラダイムに拠っているかを彼らに意識化するように発問しており、感銘を受けた。見学した大学院の授業は、Philosophy of Teaching（教育哲学）で、「教育」の領域の選択科目である。大学院修士課程で養成される高度実践看護師の役割の一つに教育的な側面があり、我が国の専門看護師養成校でも大学院修士課程のカリキュラムに教育の関連科目がある。しかし教育に関わる事柄を哲学的な問いを持って探究するPhilosophy of Teachingを教授している我が国の看護系大学院は少ない。情報化が進む今日そして将来、教え方・学び方是否応なく変化する。その際、哲学的な発問は思考の源泉を意識化させる点で重要であり、今後、教員は、情報化時代の学生が経験を通して自ら問を立て、評価するプロセスを支援できるナビゲーターとなるよう研鑽が必要であると感じた。

今回の研修に際しては、看護学科の大日向輝美学科長を

はじめとする教員の皆様に支援をいただきました。また、UA看護学部のDr. Sylvia Bartonをはじめとする関係者の方々にも深謝いたします。本報告における写真の使用は、関係者より許可を得ています。

### 注1：事前学習課題

シュミレーション学習の事前学習課題ではビデオ教材が活用される。学習のシナリオは、教員の創作物もあるが、出版社の市販教材が用いられることが多い。

### 注2：RPN to BScN Program

カナダでは高等学校卒業後、専門学校で精神看護について学ぶことができる。このプログラムはその様な学校の卒業生を対象に2年間の学士教育を行うプログラムである。

### 注3：大学院における看護専門職業人育成

UA看護学部のActing DeanであるDr. Joanne Profetto-McGrathとGlobal Nursing OfficeのAssociate DeanであるDr. Sylvia Bartonとの面談より、Master of Nursing ProgramではNurse Practitioner (NP) コースの方がClinical Nurse Specialist (CNS) よりも志願者が多い。理由は、NPは自分自身が高い専門的な技量を持つという点で明確であるが、CNSは彼らがいるその場の看護の質の向上を目指すという点で間接的であり、種々の難しさが伴うためである。

## 文 献

- 1) 今野美紀, 吉野淳一, 片寄正樹:アルバータ大学看護学部の学部・大学院教育の概要報告. 札幌医科大学札幌保健科学雑誌 2:101-105, 2013
- 2) University of Alberta, Faculty of Nursing.  
<2013.9.30. アクセス>  
<http://www.nursing.ualberta.ca/en/Undergraduate/ProgramDescriptions.aspx>
- 3) University of Alberta, Faculty of Nursing.  
<2013.10.3. アクセス>  
<http://www.nursing.ualberta.ca/Graduate/Masters/MNDescription.aspx>
- 4) Tom H. Brown:Beyond constructivism: navigationism in the knowledge era. ON THE HORIZON. 14:108-120, 2006
- 5) Connectivism.<2013.10.1. アクセス>  
<http://www.connectivism.ca/>
- 6) Donna M. Wilson, Stephen Birch, Rod MacLeod, et al.: The public's viewpoint on the right to hastened death in Alberta, Canada: findings from a population survey study. Health and Social Care in the Community. 21: 200-208, 2012